

## #編集後記 つなかりを力に変えて

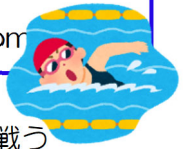
池江璃花子選手(20)の奇跡の復活劇は、スポーツは観る人に力を与えてくれるものと改めて教えてくれたようです。



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail [avenir4you@gmail.com](mailto:avenir4you@gmail.com)



日本新記録を連発していた池江選手が、白血病を公表したのはまだ高校生の時。その後は、死と戦う入院生活を強いられました。抗がん剤治療の副作用から髪は抜け、嘔吐を繰り返し、なんとか点滴で栄養を取っていたときは、「本当につらかった。人生で初めて死にたいと思った」そうです。退院後しばらくしてプールに戻った当初は、普通の飛び込みが怖くてできませんでした。そんな池江選手の復活劇でもうひとつ印象的だったのは、池江選手が優勝した時の仲間たちやスタッフの涙でした。池江選手には応援してくれた多くの人との「つながり」がありました。



最近、「**友だちの数で寿命はさまる**」(石川善樹著)という本を読みました。人間が「万物の霊長」(万物の中で最もすぐれているもの)として地球上に君臨できているのは、人間の歴史が個人戦ではなく団体戦で戦ってきたからだとして「つながり」の大切さが書いてありました。人間の脳は「つながり」によって進化を続け、「つながり」の中で生きる為に「理性」が生まれた。法律なんかもその理性の延長なのでしょうね。また興味を引いたのが、お見舞いに来てくれた人の数で死亡率が変わるといふ、米・ハーバード大のバークマン博士が行った「アラメダ研究」です。急性心筋梗塞で入院された人を対象とした調査で、誰もお見舞いに来てくれない患者さんの場合70%が6か月以内に亡くなり、2人以上のお見舞いがあった患者さんの6か月以内の死亡率は26%に抑えられたというデータが紹介されていました。

「**愛に対する飢えの方が、パンに対する飢えを取り除くことよりもはるかに難しいのです**」とは、マザー・テレサの言葉ですが、人間は生きる為には「つながり」が必要なのだと思います。

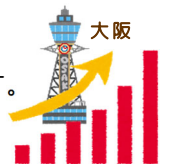
さて終息するどころか変異して感染力が強くなっている新型コロナウイルス。その感染率を上げている原因が、人と人との「つながり」にあるとなれば、この新型コロナは本当に厄介なウイルスです。



在宅勤務の需要が高まる中、厚労省は「**テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン**」を改定しました。事業者向けと労働者向けにそれぞれテレワークにおけるチェックリストが用意されています。在宅勤務やテレワークをされる従業員の方を孤立させないよう、情報提供や共有はとても大切です。このチェックリストは自由に変更できるよう EXCEL で提供されていますので、従業員への健康配慮の為に、別に厚労省から公開されている「**自宅等でテレワークを行う際の作業環境整備**」などと共に自宅作業環境の注意点の案内等に活用していただければと思います。ディタンスが叫ばれる時ですが、情報の「つながり」はどうか意識してくださいね。( ^\_- ) ☆



とりわけ感染拡大が顕著なのが大阪。全国的にも大阪の状況が大きく報道されているようです。八十を超えた宮崎の実家の母親が心配して「大丈夫か？体に気をつけるよ」とよく電話をくれます。高校を卒業して親元を離れてから、事あるごとに電話をくれる親のことを、若い頃は鬱陶しいと思うことも正直ありました。



「**親思う心にまさる親心**」(子が親を思う心よりも、子を思いやる親の気持ちのほうがはるかに深い)という吉田松陰が詠んだ歌の一節があります。

思えば、ずっと母は遠い故郷から届かぬ手で、僕の背中を「**頑張れ**」と押してくれていました。いい歳になっても親に心配をかけてしまっていますが、「元気か？」とか「太ってないか？」(笑)とか声をかけてもらうことが今はとってもありがたくて、幸せに感じています。

今年もなかなか直接会うことは難しそうですが、新型コロナは実家の母との心の「つながり」を再認識する機会となりました。池江選手のように、とまで **6^\_^**; 大きなことは言えませんが僕にも気にかけてくれる人がいるのなら、頑張らなくちゃって改めて思います。

